第４回小金井市食育推進会議　会議録

日　　時　　平成２６年３月２８日（木）午前１０時００分～午後１２時００分

場　　所　　保健センター１階大会議室

出席委員　　１３人

会　長　　南　　道　子　委員

委　員　　酒　井　文　子　委員　　齊　藤　幸　穂　委員

委　員　　鈴　木　祥　江　委員　　髙　木　有　希　委員

委　員　　鳥　羽　浩　子　委員　　松　嶋　あおい　委員

委　員　　島　﨑　聡　子　委員　　菊　谷　　武　委員

委　員　　土　屋　直　己　委員　　嶋　崎　敏　男　委員

委　員　　松　井　大　平　委員　　柿　﨑　健　一　委員

欠席委員　　３人

雀　部　かおり　委員　　笹　　真理子　委員

志　田　尚　紀　委員

事務局職員

健康課長	高　橋　啓　之
健康課健康係長	中　島　明　美
健康課健康係主任	千　葉　祐　生
健康課健康係主事	西　川　　恵

傍 聴 者　　１　人

（午前１０時００分　開会）

○高橋課長　おはようございます。早い時間からお集まりいただきましてありがとうございます。

まず、委員の出欠でございます。雀部委員、笹委員、志田委員からは欠席というご連絡をいただいて

おります。菊谷委員については、こちらに向かっているという情報が入っております。また、栄養教諭の島﨑委員につきましては、業務の関係で、本日、１時間程度おくれての参加というご連絡をいただいておるところでございます。出欠については過半数の委員の方にはご出席いただいておりますので、審議会としては成立していることをご報告いたします。

それから、資料の確認でございます。事前にお送りさせていただいたものとして、本日の次第と、それから資料１「食育推進会議の運営等について」、資料２「意見・提案シート」、資料３「食育基本法・食育推進計画」、資料４「食育推進計画進捗状況調査（平成２５年度）（案）」、それから資料５「こどもクッキング（第４回　３歳～５歳）」でございます。

それから、前回の会議資料についてもお持ちいただきたい旨、開催通知でご案内をさせていただいておりますが、過不足等ございましたら事務局のほうにお願いいたします。よろしいでしょうか。

○南会長　では、今期初めての出席となる齊藤委員にご挨拶をお願いしてよろしいですか。

○齊藤委員　東京都多摩府中保健所の齊藤と申します。よろしくお願いいたします。座って失礼いたします。

前回は欠席してしまいまして申しわけございませんでした。保健所になじみがない方もいらっしゃると思いますので、少しだけ保健所のご紹介をさせていただきます。東京都の保健所は、二次保健医療圏に１つ設置されておりまして、多摩府中保健所は小金井市のほか、武蔵野市、三鷹市、府中市、調布市、狛江市の６市を所管しております。市民の皆様への対人保健サービスを市が行っておられるのに対して、保健所のほうでは主に、例えば医薬品ですとか飲料水、食品などに関連した安心や安全な暮らしづくりといった対物保健サービスですとか、感染症にかかわる仕事などを行っております。

私が所属しております保健栄養係では、小金井市様が市民の皆様へ食に関する情報発信や講習会、クッキングの教室など、さまざまな食育事業を行っておられるのに対して、保健所では市民が利用なさる、例えば保育所、事業所のような給食施設ですとか飲食店を対象に、その施設やお店が利用者の健康づくりを進めていただけるよう、食に関する環境整備を行っております。

小金井市様のＫｏｇａｎｅｉ－Ｓｔｙｌｅとの関連では、例えば、団らんとして一緒に食べるとおいしいねということで、都民から募集した共食の写真などをパネルにして貸し出しを行っておりますので、イベントの際などにご活用いただければと思います。

もう一つ、野菜の関連では、平成２４年の東京都民の健康・栄養調査の結果が出たところなんですが、成人の目標量である１日３５０グラム以上摂取している方の割合が、男性では３９％、女性では３４％と、なかなか目標に達していない状況にございますので、そんな意味では、私どもは給食施設や飲食店等で野菜の提供量を増やしていただいたり、野菜に関する情報発信をしたりしていただけるよう、その

ための支援をさせていただいております。小金井市さんの取り組みと共通することもあろうかと思いますので、これからもご一緒に取り組めればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○南会長　どうもありがとうございました。

それでは、本日の進行なんですけれども、（３）に「こどもクッキングの視察について」とありますが、これは本日こちらのセンターで開催されている事業ですので、市役所の方で皆様にご紹介したいということで、１０時半ごろをめどに視察ということで、見学に行きたいと思うのですけれども、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

では、よろしくお願いします。では、進行をそのような感じにさせていただきます。

続きまして、事前に送付されました前回の議事録、目を通されたかと思うんですけれども、何か自分の発言内容に違っているようなことはありましたでしょうか。大丈夫でしょうか。

○千葉主任　よろしいでしょうか。前回の会議録についてですけれども、委員の皆様のご発言いただいた部分につきましては個人名を記載させていただいているのですが、事務局の部分は事務局というふうになってしまっていましたので、こちらにつきましても発言者名に変更させていただきたいと思います。以上です。

○南会長　ありがとうございました。

では、送付された内容で公開のほうを市役所のほうで手続きを行うということでお願いいたします。

それでは、前回の会議で審議しました食育推進会議の運営等についてと意見・提案シートについておさらいということで事務局から説明をお願いします。

○千葉主任　では、事前にお配りしています資料１と資料２をごらんください。

前回の会議でご審議いただきまして、食育推進会議、今期の方針が決まりましたので、確定版ということで「案」を取ったものをお配りさせていただきました。後ほどご確認いただければと思います。

資料２の意見・提案シートについてですけれども、前回の会議終了後、会議資料とあわせてホームページに掲載をしまして、また、本日の開催案内にもあわせてホームページで掲載しましたけれども、今回の会議に関する意見や提案は特にありませんでした。以上です。

○南会長　ありがとうございました。皆様、よろしいでしょうか。

では、会議録について事務局から提案があるということですけれども、説明をお願いいたします。

○千葉主任　会議録についてなんですけれども、今回は会議の開催の間隔が２カ月弱と短かったのですけれども、次回以降は、年に４回ということで、大体３カ月ごとの開催となります。資料１の「会議の運営等について」の中の、１、会議録作成の基本方針の（２）では、次回の開催時に今回のように承認

をいただいて公開というふうになっておりますが、会議の開催の間隔があいてしまう場合に、委員の皆様に確認いただくのもちょっと困難になってしまうという考えと、また、こちらの会議なんですけれども、会議に参加できなかった方にも公開している会議録ですので、できるだけ早めに公開させていただきたいと考えております。そこで、会議の間隔が短いときはいいのですけれども、期間があいてしまう場合には、会議開催後、大体１カ月ぐらいをめどに委員の皆様に会議録の案をお送りいたしまして、一定の期間を設けて確認をいただいた後で事務局のほうに訂正したものをいただきまして、最終的には会長一任ということで公開の手続きをとらせていただきたいと存じますが、いかがでしょうか。

○南会長　会議録の公開について、今の提案でよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○南会長　ありがとうございます。では、今回の会議からそのように進めさせていただきます。

それでは、議事に入りたいと思います。

本日の議事については、前回、事務局から提案のあった、食育推進計画の進捗状況と食育月間行事、今後の審議内容の３点です。

これらに入る前に、前回の会議で事務局から食育推進計画の概要について説明がありましたが、今後皆さんに審議していただくに当たって前提となる食育基本法や小金井市の食育推進計画について、それらの理念を再度、共通の認識として知ることが必要だと思いますので、それらについて説明していただきたいと思います。

○千葉主任　では、事前にお送りしました資料３「食育に関する基本理念」と、あとは前回の会議でお配りしました、こちらのオレンジ色の冊子「食育推進計画」を使って説明させていただきたいと思いますが、皆様お持ちでしょうか。事務局に余部がありますので。

それでは、資料３と食育推進計画の冊子を使って食育の基本理念等につきまして説明いたします。まず、食育の基本理念ですが、資料３「食育基本法・食育推進計画」、こちらは北陸農政局の「食育を進めよう」という資料からの抜粋でございます。そのページの中央に丸印で７点、基本理念として掲げられております。こちらは食育推進計画、オレンジ色の冊子のページの１番目、冒頭で記載している内容と同様になっております。

まず１点目、こちらは食育基本法の第２条の関係ですが、食に関する適切な判断力を養い、生涯にわたって健全な食生活を実現させることによって、こちらに記載があります国民の心身の健康と豊かな人間形成に資することとしております。

２点目は第３条の関係ですが、食生活が自然の恩恵の上に成り立っていて、また、食にかかわるさまざまな活動に支えられているといった、食に関する感謝の念と理解を深めることとしています。

３点目、第４条の関係ですが、国民、民間団体等、自発的な意思を尊重して、地域の特性に配慮した地域住民、その他社会を構成するさまざまな主体の参加と協力を得ること、また、その連携を図りつつ、食育推進の活動を展開していくこととしています。

４点目が第５条の関係ですけれども、子どもの食育における保護者、教育関係者の役割といたしまして、保護者の方に当たっては、家庭が食育において重要な役割を有していることを認識するということとともに、子どもの教育、保育等を行う方については、教育、保育における食育の重要性というものを十分に自覚して取り組んでいくこととしています。

５点目、こちらは第６条の関係ですけれども、家庭、学校、保育所、地域のその他あらゆる機会とあらゆる場所を利用して、食料の生産から消費に至るまで食に関するさまざまな体験活動を行うとともに、みずからの食育の推進の活動を実践することによって食への理解を深めることとしています。

６点目、第７条の関係です。伝統のある優れた食文化、地域の特性を生かした食生活、環境と調和のとれた食料の生産とその消費に配慮して、我が国の食料需要及び供給の状況について国民の理解を深めるとともに、食料の生産者と消費者との交流を図ることによって農山漁村の活性化と食料自給率の向上に資することとしています。

最後に７点目、こちらは８条の関係です。食品の安全性が確保されて安心して消費をできることが健全な食生活の基礎となります。食品の安全性をはじめとする食に関する幅広い情報提供及びこれらについての意見交換が食に関する知識と理解を深め、国民の適切な食生活の実践に資することを目的として国際的な連携を図りつつ、積極的に行うこととしています。

以上が平成１７年に制定されました。食育基本法の理念になっております。

続きまして、こちらの推進体制の部分について説明いたします。

国は食育基本法が制定される前にも、医療の観点からは厚生労働省、生産者の観点からは農林水産省、教育の観点からは文部科学省等、こちらはちょっと字が小さいのですが、さまざまな部署で食育の推進を行ってきたところですが、この基本法制定に伴いまして、内閣総理大臣を会長とする食育推進会議をはじめ、さらなる連携強化を行い、実施することとしています。

右側に行きまして、国と同様に、都道府県、市町村ごとにも食育推進会議を置くことができるとされまして、小金井市におきましても平成１９年度から本会議を設置しております。

下のところですね。学校、保育所、保健所、医療関係等の関係機関、ボランティア団体等の各種団体、生産者、家庭が一体となって相互に、矢印がついておりますけれども、一体となって国民運動としての食育を推進し、国民の心身の健康の増進と豊かな人間形成を図ることを目的としております。

続きまして、小金井市の食育の基本方針についても改めて説明をさせていただきます。オレンジ色の

冊子の３ページ、ページの下部になりますが図をごらんください。

小金井市では、これまで「野菜」「団らん」「ふれあい」「環境」の４つをキーワードに小金井らしい食生活のあるひとづくり・街づくりをｋｏｇａｎｅｉ－ｓｔｙｌｅとして地域に展開してきたところです。

続きまして計画の１２ページをごらんください。こちらが小金井市の食育の基本方針に関する部分です。今、申し上げた基本方針をもとに、隣のページの１３ページにある取り組みの指標を達成することを目標として掲げております。そして、その次のページ、１４ページ以降にこうした目標を達成するための具体的な施策として、こちらの食育推進会議も含めまして市役所の事業ですとか関係機関や各種団体の取り組みなど、合計１４課７０事業と多岐にわたる施策を掲載しております。

関係者の皆様からのご協力をいただきながら、健康課を中心に各担当課が積極的に実施していくことによって食育を市民一人一人に浸透していきたいと考えております。以上です。

○南会長　ありがとうございました。

ただいまの説明に関して何か質問などありますでしょうか。

この資料３の下にある推進体制っていうところに、東京都と市町村の相互に矢印がありますよね。これはどういうふうにかかわっているんですか。

○千葉主任　こちらは、こういった市の食育推進会議と同様に、保健所におきましても食育推進会議というものを設けていただいております。その中に、本日はちょっと事業のほうに出ているのですけれども、小金井市役所の管理栄養士のほうが入って、情報交換等をさせていただいております。そういった意味での連携という意味になります。

補足等があれば齊藤委員からもお願いしたいのですが。

○齊藤委員　その会議に、先ほど申しました、多摩府中保健所が行っている会議ですと、６市からそれぞれの市の代表の方に入っていただいておりますので、お互いにそこで情報交換したり、また、一緒に取り組むことで、小金井市様の取り組みがさらにお互いに影響し合って、６市で広がってまいりますし、また、保健所ではなく東京都の都庁のほうでは、それを都内全体の区や多摩地域も含めたような形でまた食育の協議会を設置しておりますので、そうすると、またそれぞれの取り組みが全体に広がっていく、つながっていくということで、東京都全体として食育が進むというふうに考えております。

○南会長　わかりました。

○高橋課長　若干補足ですが、昨年の１２月に改定をした食育推進計画では審議会の中でいろいろ練ってつくっていただいた部分もたくさんあります。もう一方で、東京都の食育推進計画というのがありますので、そこと整合性をとっていく形で文書をつくっていったところもあります。そういう意味では国

の計画があり、都の計画があり、市の計画があるという形になっており、具体的に保健所と常日ごろからきめ細かい情報交換をして、常にお互いがやっていることを把握しきっているというところまではなかなか持っていけている状況ではないのですけれども、全体としては計画の中に東京都の計画の趣旨も盛り込まれているということでご理解いただければと思います。

○南会長　わかりました。

ほかにいかがでしょうか。

食育基本法ができなければこういう会議も存在し得なかったと思うので、やっぱり食育基本法の理念というのを常に頭に入れて私たちが発言したり行動したりしたらいいのではないかと思うのですけれども。

それでは、ないようですので、議事に入りたいと思います。では、進捗状況の調査についてですけれども、事務局のほうから説明お願いします。

○千葉主任　では、資料の４「小金井市食育推進計画進捗状況調査（平成２５年度）（案）」というものをごらんください。

まず、こちらの進捗状況調査報告の目的について説明いたします。先ほど、具体的な施策、７０事業があると申し上げましたけれども、それが年度ごとにどの程度実施されているか現状を把握いただきまして、今後に必要な推進策を検討いただくために、こちらの会議でご報告をさせていただくものです。食育の推進に関する施策を総合的かつ計画的に実施していくために、計画、実施、評価、改善の、いわゆるＰＤＣＡサイクルに乗せまして、次期の食育推進計画につなげてまいりたいと考えております。

前計画に基づく進捗状況調査につきましては、平成２３年度分を、平成２４年度第３回の食育推進会議、平成２５年の３月２１日に開催したものですけれども、そちらで報告をしておりまして、平成２４年度分につきましては本計画の改定の一環としてレビュー、評価をいただいているところです。過去の資料につきましてはホームページにも掲載しておりますのでよろしければご参照ください。

平成２５年度分についてですけれども、今年の５月ごろに市役所の決算が終わるのですけれども、その決算が終わった、数字が固まった段階で関係各課、１４課へ調査を行いまして、夏ごろに開催する会議で報告させていただければと考えております。

調査の書式についてが、こちらの資料４で、案として本日、お配りしたものなんですけれども、まずはイメージをつかんでいただきたいという思いで、とりあえず今回の資料につきましては健康課の一部の資料を抜粋しまして、既に終了している事業の実績を記載したものを配付させていただきました。現時点で案として考えました調査項目としましては、具体的な実績の数値、また、事業の実施に当たっての課題やその対応策の２点を考えております。これから市役所の関係各課へ調査を実施していくに当た

りまして、例えば調査項目の追加ですとか、委員の皆様からご意見を伺いたいと思います。以上です。

○南会長　ありがとうございました。

この進捗状況の検証というのは、審議会の大きな役割の一つでありますので、皆様よろしくお願いします。

市役所の関係各課の調査に関してはご意見ありますでしょうか。

○酒井委員　確認なんですけど、これってヒアリングでしたか、それとも課から状況を報告してもらう形、どっちでしたか。

○千葉主任　これまでは、こちらの調査を配付させていただきまして、各課からデータが返ってきます。その内容を見まして、この審議会で質問が出て、答えられる範囲内で、私ども担当のほうで各課に内容がわからない部分についてはヒアリングをさせていただいております。

○南会長　ほかにご意見ありますでしょうか。

では、事務局のほうでそのように進めていただいてよろしいと思います。

先ほどアナウンスした１０時半を過ぎましたので、３番目のこどもクッキングの視察について行いたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。案内していただけますか。

○千葉主任　では、会場は２階となるんですけれども、簡単に事業の概略を説明させていただきたいと思います。

資料５のこどもクッキング、こちらは本日参加されている方にお配りしているものと同じものをご用意いたしました。こどもクッキングというのは、幼児期に食べ物に触れることで食に興味を持ってもらい、食事を楽しんで何でも食べられるようにするために実施しております。また、子供の偏食ですとか小食といった食への問題の負担軽減を行いまして、保護者の方への意識改善というのも目的の一つとしております。

こちらは年に４回開催しておりまして、定員はそれぞれ、調理室の関係上、１０組２０名となっております。今回も定員を上回るお申し込みをいただいておりまして、毎回人気の高い教室となっております。

教室なんですけれども、流れとしましては、まず１０時からオリエンテーションを簡単に行いまして、講義とレシピの説明、１０時３０分から大体１１時ぐらいまで調理実習となっておりまして、その後、試食、片づけもみんなで一緒にやって、最後に子供向けの紙芝居をお子さんに見ていただいて終了という流れになっております。

委員の皆様には、これから子供たちが調理しているところを実際にごらんいただきたいと存じます。以上です。

○南会長　ありがとうございました。

それでは、皆様、２階にお願いします。

（こどもクッキングの視察）

○南会長　それでは、感想ということですけれども。

○酒井委員　では、酒井から感想を言います。

今、お母さんにもちょっとお話を伺って、今、離れて作業していたんですけれども、泣いちゃうかなと思ったんですけど、意外と作業に子供たちは熱中していてやっているので、すごく安心してお母さんたち見ていたみたいなんですけど、今日は４歳、５歳が１名ずつと３歳が６名ということで、意外に一生懸命やれていて、多分、おうちだと、お母さんたちが忙しいときにじっくり見てあげるということがなかなかできないので、こういう機会にやらせてあげるのってすごくいいいのかなって。私がインタビューしたお母さん三、四名さんは初めてだとおっしゃっていましたけど、すごくいい感じでした。以上です。

○南会長　ありがとうございます。

私の感想は、自分の子供が外国の保育園に行っていたんですけれども、そのときに毎週金曜日が午前中、調理の時間で、自分たちの食べるものをつくるというのをやっていたんですね。もちろん男の子もやっていましたので、そういうことと、あと、現在、留学生なんかが調理実習をやっているのですけれど、日本の若い男性よりはるかに献立作成能力もあるし、調理技術もあるんですね。そういうのを考え合わせると、やっぱり小さいときからクッキングをするということに親しむということは、今、文科省でよく言う、生きる力というんですかね、自分の食べるものを自分でつくる能力ができるのかなと思って、こういう事業は大変いいことなんじゃないかなと思いました。

それでは、調理室を使った授業を行っている島﨑栄養教諭と菊谷医師にも一言ずつ感想を言っていただけたらいいのですが。

○島﨑委員　すみません、今日おくれてまいりまして、先ほど入らせていただきました。今日はありがとうございました。

さっきご案内いただいたときに、毎回この募集をかけるとすぐにいっぱいになる、そしてキャンセル待ちもいらっしゃるというお話を伺って、もちろん調理実習そのものもすばらしい取り組みだと思うんですけれども、それだけ応募される方がいらっしゃるというのは、それだけお子さんの食育に関して興味関心の高い方が多いのかなということも改めて感じました。

今、先生がおっしゃったように、小さいころからやはりこういう経験をさせるということがほんとうに大切なんだなと思ったことと、あと、もし、おうちで母子１対１でやろうとすると多分、いろいろ詰

まってしまうこともあるのかなと思ったんですけれども、すごくゆったりした空気の中で、急がず、慌てず、褒めながら、楽しくということがすごく感じられていいなというふうに思いました。

○南会長　今回はこの１回で。

○島﨑委員　あ、断定しちゃいけない。

○南会長　いいえ。

うまくご飯がつくれるようになれるわけではないので、やっぱり家庭で継続していくというのは大事ですよね。

○菊谷委員　前回お話をさせていただいたかもしれないですけど、介護食教室をよくやるんです。それが、地域の住民向けにやると、集まる人は女性ばかりなんですよ。でも、介護食を必要とする人は男性も女性もイーブンのはずで、ぼけたもん勝ち、寝たきりになったもん勝ちとよく言うんですけど、つまり、介護される側も男性半分、介護する側も男性・女性半分ずつなんですよね。ところが、男性が介護者に回った場合、つまり女性が要介護者になった場合、男性は全く無力で、ご飯ひとつ炊けない。下手をすると。結局、うちの栄養士なんかが大変苦労するのは、調理ひとつできないご高齢の方に、奥さんのために、何から教えたらいいのかって話になるんですね。

ひるがえってみると、まさに子供たちのころから、男の子、女の子限らず全ての年齢層の人たちが調理をする最低限の知識と技術を持って成人になっていかないといけないんですよね。今の世代の方はやっぱり「男子厨房に入らず」の世代の人たちだったので、まあ、いたしかたないにしても、これから定年を迎えるようなお父さんたちにも、「奥さん倒れたらどうするの？」って言って、脅してでもこういう教室をやって、介護食教室じゃなくていいと思うんですけど、そういうのも必要なんだなというのは、うちが介護食教室をやっていて常々思っていることなんですね。

今、子供たちのを見たり、また、うちの子供たちもよくうちの家内が連れていっていましたけれども、中学生、高校生になったら全くやらなくなるし、多分ここで途切れて、男２人なんですけど、ずっと一般的な日本人の男性になってしまうのかもしれないんですけど、何かそういうのって、僕らは終末期を見ているケースが多いんですけど、そこではすごく、生きる力とおっしゃっていましたが、まさにその辺の、男性の生きる力のなさを感じるんです。だから、そういうのも必要なのかなと強く感じました。

○南会長　介護の何が大変かっていうと、掃除、洗濯はね、まあ、そんなでもないけど、やっぱり炊事っていうのが一番苦痛らしいですね。３食同じものを食べさせるわけにいかないし、やっぱり日がわりで考えるというのがとても苦痛だっていうふうに聞きますね。

○菊谷委員　通常の食事もつくれないのに、かむことが難しくなったり、飲むことが難しくなった人の食事ってつくれないですよね。かなりアドバンスの話になるんで。

まさにおっしゃるように、介護負担度っていうのを調査すると、何よりも出すことと食うことで、トイレに行けなくなった人を介護している人と、食事が何らかの工夫をしなければいけなくなった人を介護している人の介護負担度が著しく高いんですね。歩けなくなるとか、風呂に入れなくなるとか、そういうのよりも断トツで、食うこと、出すことってよく言いますけど、とても重要なところで、先ほどもちょっとご相談していたんですけど、今、小金井市でやられている食育推進計画の中でそのエッセンスはないので、今の教室の中にそういうのも入れていかれたらいいんじゃないかなと。

○南会長　先程の海外の留学生、男の子なんですけれども、日本の男の子よりもはるかに炊事能力が高いって言ったんですが、聞いてみたところ、やっぱり小学校卒業と同時にお母さんが家庭の味を伝達しているんですね。男の子にも。それで、お母さんが病気になったときは子供がつくるっていうのが、海外での当たり前のことらしいんです。そこがやっぱり日本ではね、店屋物をとるとか、別な方向ですよね。何かどこかから買ってきて夕飯を済ますっていう形になっているんですけれども、そういうところが少し変わっていくといいかなと思います。

ほかに何か感想を持った方、いらっしゃいませんか。

○鈴木委員　鈴木です。私も子供が今、小学２年生で、去年だか、違うところ主催の豆腐づくり教室に２回参加しているんですけど、１回目に行ったら豆腐が全然固まらなくて、何か悔しいからもう１回やろうって言ってほかのところに行って、それで豆腐をつくって、それがものすごく大変で、買ったら五、六十円でぽんって買えるものが、つくるとこんな半日かかるんだねという話を親子でしていて、それから子供は豆腐が苦手だったんですけど食べるようになって、最初からつくって食べて大変さを知るっていうのがすごくいい経験だなと思いました。

○南会長　ありがとうございます。

○髙木委員　髙木です。こどもクッキングは去年の１０月に一度参加させていただいて、そのときは午後２時からだったこともあって、お菓子づくり、クッキーづくり、ホウレンソウやニンジンをみじん切りにしたものを入れて、簡単なおやつを一緒にこねてつくるというものだったんですけれども、それからやはり料理をつくるということに興味を持ち始めて、それでもなかなか親のほうがちょっと一緒に料理するのが怖いという思いもあり、なかなか手伝わせるということもいまだにあまりできていないんですけれども、やはり興味を持ってくれたことがすごく今後の食育につながったなということをとても実感していて、そのときはおやつづくりだったんですけれども、今日みたいにお昼ご飯の季節のものをメニューとして取り入れていけば、もっともっと興味を持ってくれるのかなと思って、改めてこどもクッキングのよさを実感したのと、あと、やはりすごく人気で、市報に載っているんですけれども、申し込み８時半からとなっていて、８時半過ぎに電話して私は申し込み取れたんですけれども、その日の午後

に電話したお友達はもう申し込み埋まっていてキャンセル待ち６人目ですという、そのぐらいの人気なので、予算の関係とかもあると思うんですけれども、もう少し年に回数を増やしていただけたらありがたいなと思う事業の一つです。以上です。

○南会長　ありがとうございます。

○松嶋委員　松嶋です。先ほど見せていただいて、うちはもう高校生になりましたけれども、小さいときに、やりたい時期に、存分にはさせてはあげられなかったんですが、一緒にやったことがやっぱり、今はもう高校生なのでめったにはやらないんですが、おだてたり褒めたり、「お願い」とか言ったりすると、まあ、やってくれることがあるんですね。やっぱり小さいときに厨房に入るようなこととか、料理をすることのハードルを下げるということで、非常にこの取り組みが、今は多分無心にやっていることが結構、何年かたった後にじわじわ効いてくるような、そういう食育の取り組みだと感じました。

それから、あと、やっぱり親にとっても、子供に料理をさせるということや、親の意識も非常に、講座を行って親に説明するよりも、実際に子供が料理をしているところを親が客観的に見ることが非常にいいことなんじゃないかなというふうに感じました。ほんとうにすてきな取り組みで今日はありがとうございました。

○南会長　市役所のほうで回数を増やすということを検討していただきたいと思います。

○高橋課長　今、髙木委員のほうから、非常に人気が高くてすぐいっぱいになってしまうので、回数をという話がありました。ご意見として今後の事業の構築に当たって参考にさせていただきたいと思いますが、我々も限られた体制と予算と時間の中で事業をやっています。保健センターを使って実施する食育関係の事業については、子供対象だけではないんですね。実は、たまたまこどもクッキングということで見ていただいたのですが、成人向けのものも多々あるわけなんです。なので、人気が高いものに集中的に事業として資源を投下していくという考え方もある一方、私たちは行政ですので、成人向けのもの等も含めて、バランスをとっていくということも一定程度必要なことにはなってくるかなと思っています。具体的にどうできるというふうにここで申し上げることはなかなか難しいのですけれども、参考にさせていただきながら、限られた体制の中で精いっぱいのことはさせていただきたいと考えます。以上です。

○南会長　ありがとうございます。

ほかには。感想は。あ、いや、別に無理にではなくても。

○鳥羽委員　いえ。ちょっと私事になってしまうんですけれども、今、菊谷さんがおっしゃっていたように、うちの主人も退職して自宅におりまして、私が出かけていましてもご飯を待っているタイプで、まさにこれか先がちょっと思いやられるなと、今、お聞きしていたんですけれども、子供たちも、日本

の学校はそうですけれども、高校ぐらいになるとやっぱり受験体制とかいろいろで、私も子供たちに炊事をさせなかったんですね。今、３番目の子供が地方に転勤でいるんですけど、賄いつきの寮だったのでちょっと安心していたんですけれども、やはり自分の口に合わないということで外食を主にしているようなんですね。やっぱり体調を崩したりするのがすごく心配で、今いろいろ見たり聞いたりしていて、子供のときにもっといろいろなことをやらせたほうがよかったなと、すごく今、反省しているんですね。

３歳から５歳までのお子さんのをやっていらっしゃいましたけど、孫がちょうどその対象年齢ですので、この間お聞きして、やらせたほうがいいということなので、孫に桜餅をつくるのをうちでやらせたんですけど、ものすごく喜んでいて、またつくりたいって言ってくれたんです。でも、お嫁さんにつくり方のアドバイスと、子供たちが集まってホームパーティーみたいなのをやるって言ってたから、そういうときにこういうものをつくればいいよってちょっと話したんですけど、どうもやらなくて、食べて終わっちゃったみたいなんですけど、お嫁さんにもこれからそういうのを少しずつ教えていって、自分もすごくできるほうではないんですけど、勉強しながらちょっと教えていきたいなと思いました。

上を見学して、３歳からあれだけ興味深く楽しくやっているのを見て、娘に去年生まれたんですけど、今、５カ月になったばかりなんですが、娘もそろそろ離乳食を始めますので、小金井市のクッキングをやっていらっしゃるのもこの間、話をしたんですけど、娘も、今、青梅にいるんですけど、青梅のそういうのに応募して行くことになっているって言っていたので、小金井市のやっていることを話してよかったなと思いました。

これからも私も勉強しなきゃいけないかなとは思っているんですけど、ほんとうに勉強になりました。ありがとうございました。菊谷さんの話もそうですけど、これから主人をしつけようと思いました。

○南会長　菊谷医師がさっき提案してくださった、男性向けの、特に退職して時間のある男性向けのクッキングというのも計画していただけたらなと思います。市で開催しているのでない、いわゆる料理学校でやっているのはすごく人気だそうですね。

○高橋課長　男性向けですと、多分、社会福祉協議会のほうで今おっしゃったようなイメージを対象とした料理教室をやっているとうかがっております。

○酒井委員　「男の料理教室」っていうんでしたっけ。

○千葉主任　「翁味会」という取り組みを進めているそうです。

今、酒井副会長のほうからもありましたが、計画の２０ページにあるんですけれども、健康づくりフォローアップ指導教室という事業を成人向けにやってございます。こちらの、疾病ごとに、例えば糖尿病ですとか高脂血症予防ですとか、幾つかの教室があるんですけれども、メタボリックシンドローム予防教室、副題を「男の健康教室」というものなんですけれども、そちらに調理も含めた、運動とかもそ

うなんですけれども、特に働き盛り世代の方をターゲットにしておりますので、土曜日に開催ということで実施しているところであります。昨年、商工会様のほうにもご案内等、ご協力いただいたり、ＪＡの方にも、前の委員の井上委員にご協力いただいて、周知のほうをいただいたところなんですが、なかなか定員に達しないという課題があります。

○酒井委員　何か、すごく評判は、参加された方は、すごくよかったと。

○南会長　私も、実は授業でこれをやっているんですね。学生向けに。もう、全然、若いので関心度はないんですけど、それでも骨粗鬆症予防食とか貧血予防食ってやると、食でそういう健康を維持というか、病気にならないようにできるというのを知って、ちょっと興味深いっていう感想はもらっています。何かそこで介護食もどこかに取り入れるといいんじゃないかなと思います。

○鳥羽委員　「ごちそうさん」見ていると感じますね。生きることは食べることで、食べることは生きることとか言っていて、まさにそのとおりだなと思ったんですけど。

○南会長　みんなの意識が高まるといいですね。

○髙木委員　髙木です。今、お話があった、まさにこの健康づくりフォローアップ指導教室は、主人が結構おなか回りがすごい増えてきて、体重も身長１７０センチに対して８０キロを超えてしまって、中性脂肪の数値も上がってきているので勧めたんですけれども、男性特有の恥ずかしさといいますか、勧めても「ちょっといいや」という形で参加はしてもらえなくて、働き盛りの男性もそうですし、シニア世代の方も、もっと男性が参加したくなるような形にするにはどうしたらいいんだろうというのをこの会議まで考えていたんですけれども、もし何かいい意見があったら。

○南会長　生活習慣病は痛くもかゆくもないんですよね。ですから、あまり改善しようっていう意識がないっていう、そこが問題かなっていう気がしますね。

○菊谷委員　これ、どのタイミングでお話をしたらいいかわからないんですけど、今ちょっとお話を伺っていて「翁味会」、こういう、うちの介護食教室、今日もやっているんですけど、今日も３０人ぐらい来ていますが、市内でやっている民間を含めていろいろな情報が、市がやっている事業だけではなくて、この会で集積して何らかの形で、特別お金の高い、何万円もするような教室を紹介することはないと思いますが、例えばワインのソムリエで１回幾らとかは別にして、実費ベースぐらいでやっている、いろいろな商工会を含め、うちのクリニックも含め、やっているのを広く市民が見れるような環境、そういうホームページなり何なりというのはこの会で立ち上げるとかっていうこととかはあるんですか。

今の「翁味会」なんていうのは多分いい話で、僕らも知らなかったし、知っていれば多分すごく、人が集まらない男性教室も、多分、ほんとうに必要としている人に届いていないだけなのかもしれないですよね。おっしゃったように、行ってみたらすごく評判がよかったと。だから、なかなか届かないとこ

ろをこの会が仲立ちをしてあげられるような部分もあってもいいのかなと。

○高橋課長　今、菊谷委員のほうからご提案がありましたが、まさにその部分が、会長のほうからもありましたように、条例の中に盛り込まれている食育コーディネーターをこの審議会の委員の中から設置するねらいとなっているところです。情報の橋渡し役といいましょうか、行政ができる部分ももちろんあると思いますし、行政だけでは届かなくて、それを行政の外の方に一部その役割を担っていただくということも非常に効果的なやり方なのかなと。

コーディネーターについては具体的に何をやっていただきたいのか、どういうふうなことを、どこまでの範囲のことをお願いできるのかっていうことが、まだぼやっとしている部分もあるので、それについてはこの審議会の中でいろいろご意見をいただきながら固めていければなというふうに思っているところです。

それと、あともう一つ、情報の提供のツールとして、食育ホームページというのがございます。これは市役所のホームページのところにリンクが張ってあるわけなんですけれども、食育ホームページ編集委員会というボランティアさんの組織を立ち上げまして、もちろんそこに市も入って定期的に編集委員会を開催し、情報交換をしながらどういう記事をホームページにアップしていくか、どんな記事づくりをやろうかといったことをやっている市民協働の取組みであります。

これをどういうふうにいろいろな方に知っていただくかというのが今後の課題なのかなと。そういうことも含めて、今後コーディネーターさんというのもこの審議会の中から選任をいただきながら、行政とコーディネーターさんという形で浸透させていくことができればいいのかなというふうに私としては考えているところです。

○南会長　そういうことで、これから審議会も少しずつ考えていくということでお願いします。

そろそろ時間も押してきましたので、議事の４番目、食育月間について審議していきたいと思います。まず事務局のほうからお願いします。

○千葉主任　前回の会議でも概略を説明させていただきましたが、６月に全国的に普及啓発が行われている食育月間行事に関しまして、市内で開催されるイベントの予定についてご説明いたします。

前回、松井委員のほうから、６月の商工会のイベントについて紹介をいただきまして、私どものほうで商工会様へ確認をさせていただきました。資料はちょっとないのですけれども、まず１つ目が、６月１４日に商工会様主催で開催されます名物市というのがあります。こちらは武蔵小金井駅前にある市民交流センターとイトーヨーカドーの間にありますフェスティバルコートで主に物販ですとか展示を行うということです。来場の予定は３，０００人から１万人程度ということで、もし食育ブースの出展希望をした場合の受け入れは可能ということです。

２つ目が、６月１日にあります、こちらもフェスティバルコートと、あとは市民交流センターを使って和太鼓のステージですとか飲食店の出展、体験や展示を行うイベントです。来場予定は１万３，０００人程度を予定しているということで、もし食育ブースの出展希望をした場合には、場所が交流センターの地下ということなんですけれども、地下であれば受け入れは可能とのことです。

こちらにつきましては、３月１９日に主催である青年会議所様から提案をいただきまして、これまで参加してきたキッズカーニバルと同じ主催者様なんですけれども、食育ブースがこれまで大変好評だったということで出展を検討いただけないかというお話をいただきました。

なお、同じ日に、こちらの保健センターで歯科医師会様が主催する「小金井市民の歯の健康展」というのも開催される予定になっております。

最後に、前回もお話ししましたが、これまで参加してきたキッズカーニバルにつきましては、９月に東京学芸大学の芸術館で体験や展示のイベントを行います。来場予定は毎年約２，０００人程度ということで、出展の申し込みはこれからというふうになります。以上です。

○南会長　ありがとうございました。

この会議では６月か９月か、どっちもかということを決めればよろしいですか。予算的にはどっちに出しても大丈夫という形でしょうか。

○千葉主任　予算ですとか人員のところにつきましても説明をさせていただきます。

まず、イベントに出展するときの、例えば食材ですとか消耗品、あとは配布するチラシ等の費用につきましては、一定程度予算を確保しているところです。ただし、前期の食育推進会議ではキッズカーニバルの参加を想定しておりましたので、１回分の約７００人程度用のものしか予算が今のところはありません。

これらのほかに、先ほど保健所の齊藤委員のほうからもお話をいただいたんですけれども、例えば豆つかみゲームですとか花あてクイズ、紙芝居等、保健所様のほうから無料で借りることができるものもありますので、そういったものを活用できればというふうに考えております。

人員についてなんですけれども、これまでこちらの食育月間行事につきましては、健康課の職員と、あとは食育推進会議の委員の方何名か、あとは食育ホームページ編集委員の方、あとは市民ボランティアの方と数名体制で実行委員会をこの会議とは別に立ち上げまして、内容等を協議して実施をしてきたところです。昨年、実行委員として協力いただいた方、ほとんどの方は今年度も引き続きご協力いただけるというお話は昨年の反省会の中でいただいているところです。以上です。

○南会長　ありがとうございます。

６月に行うものは、青年会議所からできれば出展いただきたいという要請が来ているということなの

で、いかがでしょうか。

○松井委員　松井です。青年会議所のやつが多分、地下に入っちゃうんですよね。スペース的にはそっちのほうが広く使えると思うんです。名物市は多分、テントの半分を使う形なので、やられることが結構限られてくると思うんですね。人の集客はどちらもそんなに変わらないと思いますので、ＰＲしたい内容に対してのスペースの広さを優先してもいいのかなと思います。

○高橋課長　事務局からなんですけれども、６月に２つぐらい、今、候補があってということなんですが、２つ全部というのは厳しいかなという思いがあります。それで、６月１日のまちたからフェスタについては、交流センターの地下のスペースを使わせていただけるということなんですが、地上の部分でイベントをやっていて、ぽつんと地下に入ってしまうということで、青年会議所さんのほうではスタンプラリーみたいな形の形式をとって、各ブースにお客さんが行き渡るような仕掛けは考えたいところだというふうにおっしゃっていましたが、ちょっと寂しいかなという思いがあります。

あと、先ほど千葉のほうから説明がありましたように、保健センターの方で、これは毎年恒例行事というふうになっているのですが、歯の健康という歯科検診とか口腔がん検診とか、そういったものを歯科医師会の先生方のご協力をいただいて実施しておりまして、毎年３００人から４００人の方がお見えになっているという状況があります。今年は交流センターと保健センターとでイベントがバッティングしてしまっているので、お客さんが少なくなってしまうという危惧もあります。当日、交流センターの会場で歯の健康のＰＲなんかもさせてもらってもいいですかみたいな話も青年会議所さんのほうに投げかけはさせていただいているところです。大々的にＰＲすることは難しいと思いますが、もし食育のブースを出すということであれば、そこの中で歯の健康のＰＲもできるのかなというふうに私としては考えているところです。

それと９月のキッズカーニバルを含めて、２回出るのか、それとも体制、予算の問題も含めて、絞っていくのかというところで皆さんのご意見を伺えればと思っています。

○南会長　６月は食育月間っていうこともあって、６月にやるのが好ましいんじゃないかなということはあるのですが、このキッズカーニバルというのは好評ということもあって、それが捨てがたいというところなんですね。

○鈴木委員　去年来て、また来年もって思っていらっしゃる方もいると思います。

○酒井委員　酒井です。質問なんですけど、交流センターの地下って、私、入ったことが多分ないと思うんですが、どんな感じなんですかね。

○千葉主任　広さで言いますと、すみません、ちょっと見にくいんですが、ギャラリーになっていまして、扇形なんですね。縦が１６．５メートルで横が９．５メートルとありますので、広さとしては相当あ

ります。

○酒井委員　キッズカーニバルでやったところよりも広いぐらい？

○千葉主任　ずっと広いです。なので、キッズカーニバルでは６つのブースを出展しているのですけれども、同程度ぐらいのブースを出さないと、ほんとうに地下にぽつんと２つだけあっても、ということもあります。

　例えば、昨年で言えば、事務局といたしまして、５人出させていただいたところはあるんですけれども、歯の健康展でも職員を出さなければいけませんので、健康課の人員が限られてしまうと。なのですが、例えば、もう既にお話が行っているかもしれないのですけれども、ブースの中に直売所を昨年、キッズカーニバルで設けていただいたりしていたんですね。こちら、出展の予定というのは？

○土屋委員　６月１日のほうですか。

○千葉主任　はい。

○土屋委員　それは入っています。だから、それは外でという。直売所じゃないです。それは青年部で、農協のほうの青壮年部のほうで依頼がこの６月１日の青年会議所のほうは来ていまして、青壮年部が地上のほうのテントで野菜を販売するということにはなっています。

○千葉主任　例えば、こちらの推進会議の方から何名か実行委員としてご協力いただける方がいるですとか、昨年のボランティアで入っていた方にも、この日付が最近出たものですのでまだ打診をしておりませんので、何名の方が協力できるかによっても、ちょっとお話が変わるのかなというふうには思うんですが。

○酒井委員　キッズカーニバルもね、やっぱり人数がいないと、休憩とかいろいろなことがあったりして、みんな回しながらやっていましたから、やっぱり人員はすごく大きいと思うんですよね。歯科医師会さんのイベントがあって、健康課さん、やっぱり半分以上は取られるということですよね。もし実際にやったとしたら、健康課さんのほうで前は５人出ていただきましたけど、それが例えば２人になるだとか３人になるのかとかって、そういうのはありますよね。

○千葉主任　今のところ、二、三人ぐらいになってしまうのではないかと思われます。

○酒井委員　そうですよね。だと、この中で例えば皆さんが手を挙げていただいて、たくさん出ていただければ、あとキッズカーニバルに参加していただいた方にも声をかけていただいて。でも、結構ここでキッズカーニバルに出たメンバーがもう既に３人いるので。その辺だと思うんですよね。

○松嶋委員　松嶋です。このイベントとキッズカーニバルの両方をやるとすると、全く同じ内容っていうのはやっぱりちょっと、まあ、同じ年齢層の方が来られるとすると、またこっちでも同じことだなっていう感じになるとすると、結構、両方やるとすれば工夫が必要だと思うことと、あと、６月１日のほ

うの、場所が変わって、例えば今度、飲食が可能であるとか、独自性を出せるような、また別のエリアから盛り込めるような場所なのかなという部分。私は入ったことはあるんですけど、前はお茶室はお茶とお茶菓子で、全面的には飲食禁止だったような気がするんですが、その辺はどうなんでしょうか。

○千葉主任　地上のほうで飲食店が幾つか出ますので、近いところで食べていただくスペースはあるのではないかとは思います。

　このイベントで食品を出すためには保健所のほうに幾つか届け出を出さなければいけなくて、費用がかかるものもちょっとあるので、そこの部分については今、予算計上していないところです。

○嶋崎委員　農業祭で市民交流センターを使っているんですけど、昨年から地下のところは食べることは大丈夫です。それと、あと、去年、おととしですか、農業祭で展示物をやったんですよね。それで、地下のスペースに展示をしたんですけれども、まあ、１階もやったんですが、なかなか地下のほうが孤立をしてしまうと。だから、よっぽど何か仕掛けをしないと呼べないというのが現状で、やっぱり階段になってしまいますのでどうしても見に行かれる方は、ちょっと不利になってしまうかなというような状況だと思います。

○髙木委員　髙木です。私、この６月１日に開催される、まちたからフェスタと、６月の１４日に開催される名物市は参加したことがなくて、雰囲気がちょっとまだイメージがついていなくて、キッズカーニバルは昨年参加させていただいたので、ほんとうに大好評といいますか、人も入っていましたし、食育のブースにも人が立ち寄っていったのは拝見しているんですけれども、名物市とまちたからフェスタは、来場される方の予想人数でいくと、すごい人数なので、どういうイベントなのかというか。すみません。

○松井委員　松井です。まちたからフェスタは、いまひとつ知らないんですけど、名物市のほうは基本的には商工会のイベントですので、商業者が飲食店もありますし、あと工業のほうですね。自分のところでつくっている製品、こういうのがありますよみたいなのを展示したり販売したりするというのが基本的な目的なんです。それと、これからの商工業者を育成するというところで、小金井らしいアーティストさんだとか作家さんだとか、そういった方に焦点を当てて紹介をするようなスペースがあったりとか、あと、もちろんそれだけでは集客もなかなか難しいので、ステージ的なものがあって、にぎやかなステージがあるというような感じですね。

　なので、来客というか来場者数はそこそこありますね。小金井をいろいろ周遊をさせるような仕掛けというか、こんなところがありますよというようなことも、クイズ形式というか、そういうものでやったりなんかするので、今度で１４回目になりますので、まあ、そこそこ続いているものなので、人はそこそこ来ます。

ただ、スペース的にテントの半分という形に多分なっちゃうと思うので、それで間に合うようなものという縛りが出てきてしまうのがちょっとどうかなと思うんですけれども。多分、告知とか周知させるということに関して言うと、結構人が来ますので、有効かなとは思います。

○髙木委員　髙木です。松井委員、ありがとうございました。今までのお話を伺っていると、６月１日は保健センターで歯科医師会主催のイベントがあるということもあって、６月１日にまちたからフェスタのほうにもブースを出すとなると、やはり人員の問題で大変だと思われますので、６月１４日の名物市の、その半分いただけるブースと、あと、また、私はやはり昨年のキッズカーニバルの好評だった、あの日の流れを見ていますので、キッズカーニバルはやはりブースを出していただけたらありがたいなという思いもありまして、この２つに絞るのはいかがでしょうかと。

○松井委員　実際に６月の名物市に出されるとすると、もう結構２カ月ぐらいしかないので、実行委員会形式でやられるんでしょうけれども、作業的に間に合うのかなっていうのが心配なところです。実際、僕も名物市のほうは実行委員でやっていますので、それでももう４月あたりは３回、４回、５回になるような感じでやっていますから、今から委員会立ち上げてっていうのは、ちょっと時間的に無理がないかなという気もします。

なので、そのキッズカーニバルか、あとは学芸大学の科学の祭典ですね、そこら辺がいいんじゃないかなと思いますけど。

○南会長　では、６月はどちらもちょっと難しいという感じですか。

○松井委員　前回のキッズカーニバルのときのここの出展を僕は見ていないので判断しようがちょっとないんですけれども、時間的に間に合うか間に合わないかというのが、ちょっと心配な感じですよね。

○南会長　事務局はどうでしょう。その辺の判断は。

○千葉主任　おっしゃるように、テント形式でキッズカーニバルのように出展というのは、これまでしていませんでしたので、またスペースも限られるということで、何かの展示だったり配布程度にとどまってしまうのではないかなというふうな考えはありましたが、また具体的に、じゃあ、何を出そうというのは考えていませんでした。

例えば６月１日の地下でやるもの、キッズカーニバルと同じものだと、という話もありましたけれども、準備期間の短さから、同じような内容のものを出展するしかないのかなと思っていたところです。ただ、食材費ですとかそういったものが、キッズカーニバルにも出展するとなると半分になってしまうということと、お客様の数が見えないということもありますので、ひょっとしたら午前で野菜がなくなっちゃいましたので、もう午後はできませんとかっていう懸念がありました。

○南会長　これは６月か９月かどちらかというのですね。選んだほうがよろしいっていうことですね。

で、どちらかというと９月のほうの、学芸大のほうのキッズカーニバルに参加するということで。

○鈴木委員　鈴木です。お子さんがキッズカーニバル対象のイベントなので、出すものもある程度年齢絞れて、来た方に持って帰ってもらえるものが多いかなと思います。お子さんの食育に絞ってやるとしたら、キッズカーニバルのほうがいいような気がします。

○南会長　準備期間もありますし、前回やっているっていうこともあって、やりやすいっていうことも確かにありますね。

○酒井委員　そうですね。ただ、いい機会ではあるんですよね。多分、お客さんの層が違うと思うんですよ。青年会議所は。そうすると、ライフステージごとに食育を推進していくっていう意味であれば、キッズカーニバルはお子さんと親御さん対象で、こっちはもしかしたら、もっと大人の方たち、成人の方たちが来てくださって、そちらに周知できるっていう可能性はあるんですけど、ただ、準備期間とか、どこまでできるかですよね。

○南会長　内容を詰めていくのがちょっと。

○千葉主任　今回の２つのイベントがたまたま６月にあるんですけれども、１日のまちたからフェスタのほうは今年限りのものです。名物市のほうも毎年秋にやられていたという話だったかと思うんですけれども。

○松井委員　そうですね。名物市は毎年秋に今までやっていたのを、ちょっと変えた。農業まつりと、農業会と大体かぶってくるので、ずらしましたよという形だったんです。まちたからフェスタっていうのはＪＣの総会みたいなものが今回、小金井で開催されるに当たって、それのイベントの一環なんですよね。なので、単発のイベントだと思います。だから、ほかの地域でやっているときもそういうものが多分あったんだと思うんですけど、小金井でやるのはこれ限りだと思います。

○土屋委員　土屋です。６月１日の青年会議所のほうですが、僕、ちょっと青年会議所のほうに一時期入っていたので、これ、去年が小平市のほうで、その前が国分寺市のほうで開催していまして、まちぐるみではあるんですが、東京都のＪＣ全部が集まって企画をして、いろいろなイベントを呼んでやったりとか、子供相手のイベントだったりもあったりとか、そういうので周知というか、集客をしているようなもので、今回、小金井市が、去年とかおととしもやりたいということで立候補はしていたんですが、なかなか決まらなくて、やっと今年取ることが、オリンピックのような感じでやっと取ることができてということで、駅前でやるというのは、今までの中ではなかったイベントなんです。ほんとうは小学校の校庭を借りて、体育館を借りてやったりとか、あと、違う広場を借りたりとかで、駅前でやるということがなかったというのがあるので、集客は多分多いだろうと見込んでいるようです。

なので、いろいろな方に参加してほしいというふうには思っているようで、青年会議所のほうの中で

も、講師を呼んでの展開というか、一般の人向けにもやったりするんですが、ぜひこういうところにも参加してほしいということで、多分、声がかかったのかなとは思います。

先ほどの話で、私、農協のほうの青壮年部のほうでも依頼が来ていまして、そこでも野菜の販売をするようになっています。

○松井委員　名物市のほうは、多分、経済課がもともと始めている事業の一環ですので、ＰＲを云々ということだけを目的とするのであれば、経済課さんのほうでブースを何かしら出すと思うんですけれども、こきんちゃんなんかも借りている状態ですので。なので、ここの食育に関する何かＰＲをしたいよということであれば、ちょっと乗っかってもできちゃうかなと。なので、単体で出すっていうことを考えないでも、配布をするとかっていうことに関して言えば、経済課を通して協力を得ることができると思うんですよね。なので、そっちはあまり考えなくてもいいかもしれないです。

○松嶋委員　せっかくの機会ですので、もし予算がつくのであれば、何か、食育のこういう取り組みをやっているんだということと、年齢別の気をつけるポイントを書いたものであるとか、レシピであるとか、何かしら市民の食育に対する啓発になるような配布ができれば、それだけでも意義があるのではないかと考えます。

○南会長　事務局からどうぞ。

○千葉主任　先ほど申し上げたように、キッズカーニバルで配る用の予算はついているところです。先ほど科学の祭典というお話も出ましたし、市内の大きなお祭りとしては例えば市民祭りがあったり、こういう単年度の、ちょっと一番最初に前回の会議で、６月は食育月間だというのを中心にお話ししてしまったんですけれども、６月に限らずとも周知啓発というのはできるわけです。集客の面で言えば、さまざまなお祭りがありますので、例えば、今、何かほかのイベントでもチラシを配れればいいんじゃないかですとか、成人向けの取り組みがというのを、例えば今後ご審議いただいて、今年はちょっと短いので、例えば来年度以降の何か出展を考えていただくというのも方法としてあるのかと思うんですが、いかがでしょうか。

○南会長　予算的にはキッズカーニバルのほうのチラシの分はあるけれども。６月のほうはちょっと厳しいかもしれないということですね。

○高橋課長　今、松井委員のほうからあったように、経済課がブースを出すだろうから、そこに相乗りで、みたいな話の中で言えば、松嶋委員からあったような、例えば食育ホームページなどのレシピ、チラシであったりとか、そういったものを配布しながら、一緒に食育のホームページ自体の周知もできていけるのかなという思いがあります。ちょっと行政内部で経済課とそういう形でブースの相乗りができるかどうかという確認は必要なんですけれども、いずれにしても、同じボリュームのイベントを２回打

っていくっていう程度の予算を２６年度確保できている状況ではないんですね。例えばキッズカーニバルと同じ規模ぐらいのイベントをもう１回どこかで６月にやろうかという話になってくると、お金の工面をこちらで、全く不可能ということではないんですけれども、予算を伴う話になりますので、何らかの工面はしていかないとなかなか厳しいのかなという状況にはあります。

ですから、今のお話の流れを聞いている中で、例えば６月はそういう形で、６月１日の青年会議所さんのやるところではなく、商工会さんのほうでやる名物市のところで何か既存の市役所が出展するブースとの相乗りで少し食育のＰＲができないかということが１点。で、９月のほうのキッズカーニバルは、やはりこれは毎年好評ですし、これまでかかわってきた方々も含めて、事業、イベントのイメージというのがある程度ついているので、そこを中心に考えていくというのが１つの考え方かというふうに思っております。

○南会長　それでは、この審議会としては、どうでしょうか、９月のほうの参加をまず決定ということで、６月については市役所のほうで模索していただくということで。持ち帰っていただくということで。

○高橋課長　せっかくの食育月間ということですので、何らかの形で、ちょっとでもＰＲができればと思います。

○南会長　キッズカーニバルに来るのはお母さんと子供という、そういう、ちょっと年齢層の若い世代が中心になるかと思うので、やっぱり年配者向けに何かＰＲできると、この審議会としてもいいなということは思います。

○土屋委員　土屋です。６月１日は、先ほど言いましたように、私、参加しますので、チラシとか、もし用意できる範囲であれば、そこで野菜を販売する横でとか渡したり、あるいは野菜の袋に一緒に入れて渡したりとかはできると思うので、その辺が準備できるようであれば、協力はできるかなと思います。

○南会長　ありがとうございます。

では、すみませんけれども、市役所にちょっと持ち帰って検討していただきたいと思います。

○高橋課長　はい。

○南会長　それでは、この４番目は終わりまして、次、５番目ですね。今後の審議内容についてですが、これについて事務局のほうから何か説明ありますでしょうか。

○千葉主任　この会議は年４回、大体３カ月ごとに開催することとなります。これまでのお話で出たとおり、前期の食育推進会議というのは年に２回の開催となっておりましたので、１回を食育月間行事の内容を協議いただいて、もう一つの会議で進捗状況調査の報告を行うということだったのですけれども、４回に今期から回数が増えたことで、委員の皆様から、例えば介護のことですとか、何か審議いただくこと、例えば食育コーディネーターの役割ですとか、そういったもののご意見や提案をいただければと

思うのですが。

○南会長　食育コーディネーターについては、前期の推進会議で何か少し最後のほうに出たという話をちょっと聞いたのですけれども。コーディネーターの存在をつくって、今までちょっと漏れていたと言ったら変なんですけれども、情報を共有するパイプ役みたいな形で、そういうのを設定したらどうかっていうのを提案されたというのをちょっと聞いたような気がするんですけれども、今回はそれをほんとうに置くかということについて審議していただきたいんですが。それも、もしできたらこの中で役割の方を選出できたらということなんです。それについてちょっと審議していただきたいんですが。

じゃあ、事務局のほうから、その役割は、例えばどんなものがあるかとかっていうのを説明していただけますか。

○高橋課長　コーディネーターについては、条例に規定されている事項なんですね。推進計画の３６ページになります。第１４条の第９項です。下から４つ目ぐらいです。推進会議の中に食育コーディネーターを１人を置くことが出来るとなっております。役割としては、推進会議の方針に基づき関係機関と幅広い連携を促進するということです。それで、ちょっと私のほうでこの条例の規定に基づいて、今後、我々、この審議会の中でコーディネーターさんというのを置いていきながら、先ほど会長のほうからありましたように、パイプ役みたいな形の役割を担っていただくというようなことをお願いしていきたいなというふうに思ってはいるんですけれども、計画の事業の中にも、これは２３ページあたりにも、計画の推進に向けてという中にも、コーディネーター設置ということが書かれているんですね。この条例を受けてこういう記載事項になっているというところであります。

ただ、先ほど菊谷委員のほうからもありましたし、行政はわりと縦割りになってしまうところがあって、なかなか他課のやっていることとか、他機関のやっていることの情報共有ができにくいと。一方で食育というのは、縦割りではやっぱり通用しない部分がございまして、横串を、各担当部署を食育というキーワードで、横に串刺ししていくようなイメージなのかなと思っています。ですので、そういう意味も含めてコーディネーターの設置というふうになっているというふうに私は理解しているわけなんですけれども、どこまでお願いできるのか、具体的にどんな役割を担っていったらいいのかというところをやっぱりもうちょっと膨らませて、皆さんからの意見なんかもお伺いしながら、この審議会の中でコーディネーターという役割に対して共通のイメージをつくっていければいいのかなと。

もともとが、ちょっとこれ、こういう言い方をすると語弊があるのかもしれませんけれども、今回のこの食育推進基本条例というのが、市議会議員の提案によってつくられた条例ということがありますので、私たち行政の側としても、このコーディネーターということに対して具体的なイメージを持ってこの規定を盛り込んだということではないといった事情があります。ですので、条例をつくっていく中で、

副会長の酒井委員を含めて、議員の皆さんとやりとりをしながら今回の食育の条例ができているという経緯があるので、その中での議論も踏まえながら、どういうことをイメージされていたのか、それを受けて我々行政としてはどういうふうにしていくべきなのかということを考えるに当たって、皆さんのご意見を伺っていきたいというところなんです。

今日の段階ではまだ具体的に中身について詳しく、私のほうでこういうことを考えていますから皆さんどうでしょうかというふうに申し上げる状況ではないのですけれども、少し時間をかけて、１回の会議で結論が出るともなかなか思えませんので、何回かに分けながら少しずつ構築していければいいかなと。ただ、行政のスタンスとしては、いろいろな経緯があってコーディネーターを設置できるという規定が条例の中に盛り込まれておりますので、コーディネーターを設置するのかしないのかという選択肢は考えていなくて、基本的には設置する方向でスタートを切っていきたいというところであります。

こんなところで、今の説明、大体なっていますかね。どうでしょうか。

○南会長　今までは置かなかったっていう、その置かなかったことで何か不都合があったということがあれば、置くということにすごく意味があって、その人の役割というのが明らかになると思うんですけれども、何かそういう不都合とかありましたでしょうか。

○高橋課長　引き続いてすみません。私の聞いている範囲では、先ほども申し上げましたように、行政の縦割りという部分でなかなか食育が進んでいかない、庁内でも意識が浸透していかないし、市民に対しても情報の提供がなかなかなされていかないというところがやっぱり一つのきっかけだったというふうに聞いております。なので、行政のほうに、本来、行政がやるべきなんでしょうけど、そこがなかなか進まないので、いっそのことコーディネーターというのを設置してやっていったらどうなのかというような流れになったのではないかなと。

だから、私としては、本来、行政がやるべきことというのは多々あると思っていますので、横のつなぎ、連携というのは行政がやるべき範囲のものもあると思いますから、行政ができることは行政がもちろんやっていきたいと。そうではなく、逆に行政が動かないほうがスムーズに行くような横のつながりもあると思っていますので、そういったところはコーディネーターさんにお願いできる分野になっていくのかなと。

例えば、もっと細かいことを申し上げますと、この審議会の中から設置できるという規定になっていますけれども、コーディネーターさんって、どこまでお願いするかによってものすごくボリュームが出てくる業務だと思っているので、そうすると果たして、じゃあ、その職を置くという位置づけに対して、それは非常勤の職員なのか、それとも今回の審議会の皆さんのように、いわゆる非常勤の特別職みたいな位置づけになるのかによって全然、予算的な措置の仕方もまるっきり変わってきてしまいますので、

そこら辺のイメージというのはまだ私のほうではちょっとついていないし、仮に審議会の委員の皆さんと同じ立場の位置づけでということであれば、お願いできる範囲というのも限られてくるのかなという思いは持っております。

○南会長　まだイメージがなかなかわきにくいものなのですが、コーディネーターを置くということについては皆さん、賛成していただけますでしょうか。

　では、賛成という方向で、どなたかにお願いするという形になると思うんですけれども、今日は人選は別にしなくてもよろしいですか。

○高橋課長　まだやっぱり私自身も具体的なイメージというのがなかなか固まっていない部分がありますし、もう少しいろいろな角度から検討して、コーディネーターさんの役割についてイメージをつくっていきたいと思っていますので、ちょっとまだ未調整なんですけれども、実現できるかどうかわかりませんが、必要があれば食育の議員懇談会というのが立ち上がっていますので、この方たちが去年、条例制定に向けて精力的に動かれた経緯もありますから、そういうことも含めて可能であればこの審議会にお呼びして少し説明をしていただくということもできるかなと。ちょっとこれはまだ私の私案の段階ですけれども、そういった調整も必要であれば行いますし、そういう中で皆さんとコーディネーターのイメージをつくっていきながら、最終的にどなたにお願いできるのかということを審議会の中で人選を行えばよろしいのかなと考えています。

○南会長　そういう方向で行くということで、皆さん、どういう仕事があるかなど、少し考えていただけたらなと思います。

　酒井委員はどうでしょう。前期、この会議に参加していて。

○酒井委員　イメージというか、先ほど課長がおっしゃったように、串刺しというか、横の連携という意味で必要なんですけれども、例えばイメージしやすいことでお話しすると、学校なんかで食育の活動を通して、学校側が何か食育授業をやりたいと言ったときに、今は学校の先生とか、島﨑先生なんかもそうですけれども、自分の知り合い、つてを頼って誰かに依頼をして授業をしてもらうゲストティーチャーを呼ぶとか、それから、年間の食育の授業とか行事を決める際に、具体例として、実際どういうことをしたらいいかというときのオブザーバー的な人をお願いして話をしてもらうとか、打ち合わせをするとかっていっても、そういう個人的なつてを頼ってなんですけれども、そういうコーディネーターがいれば、そこにどこの学校でもお話をすれば、その人が橋渡しになってくれるとか、これだけの審議会の委員の中でいろいろなポジションの方がいらっしゃるので、そこと橋渡しをするとか、そういうことが具体的に言えばそういうイメージだと思うんですけど。

　島﨑先生、ちょっと何か、こう、イメージ的に。

○島﨑委員　学校ではまさにそういう立場で動いているんですけれども、今、お話しくださった食育コーディネーターがわかるような、しっくりこないようなっていう感じでしたので、具体的なこういう場でこういうことをするというのがもう少し明確にならないと、描けないまま人を決めるわけにはいかないと思いました。学校では確かにそういう形で、そういうスタンスで私はいると思います。

○高橋課長　冒頭の説明の中にもあったように、食育の基本理念とか考え方ということで７項目、法令のところからの引用で引っ張ってきてあるわけですが、非常に幅広いということで、島﨑先生のおっしゃるように、学校とのつながりだけではなく、いろいろな団体とのつながりも必要になってくる。そういう中でのコーディネーターという役割になってくる。

あと、ちょっと知れ渡っていないというか、活発ではないんですけれども、食育関連団体の登録制度なんていうのも小金井市ではやっておりまして、そういうところに団体さんとして登録をされている方たちもいらっしゃると。この方たちとのつながりも当然出てくるだろうと。もっと強化していかなければいけないというような思いもあります。

だから、それぞれイメージするものが、いろいろ幅が広い中で、共通認識をつくり上げながら役割とか人選をしていく必要があるのかなというふうに思っています。

○南会長　どうもありがとうございます。

では、このコーディネーターについては宿題ということで、少しずつ考えていただきたいと思います。

それでは、先ほど、年２回だった会議が年４回になって、回数が増えたということで、審議する内容をもう少し考えていきたいなと思うんですけれども、何か皆様から提案ありますでしょうか。

○菊谷委員　菊谷です。この資料４にある、市がやられているさまざまな事業が、市の限られた予算として全てのライフステージにということも鑑みて、このパターンで２６年度、２７年度いいのかというようなことの意見もぜひここから上げていっていいのかなという気がします。

私の観点からすると、私のクリニックは半分子供たちなので、子供たちのことがすごく気になるのですが、これをぱっと見ると、上から９番目ぐらいまでは子供たち向けなので、子供たちは非常に充実しているなと思います。成人、高齢者に関してどうかなというと、やはり相変わらずの過栄養、食っちゃいけんっていう話ばかりで、糖尿病や脂質異常症は病気なので、これは医療に任せて、普及啓発という意味においては、むしろ低栄養のほうが今は問題で、メタボリックシンドロームの宣伝が行き過ぎたばっかりに食べることが罪に思えて、７０、８０になってもおばあちゃんが「私、ダイエットしてるの」なんて言う世界になっているのを何とかしないと感染症の予防とかにつながらないので、しっかり食べるんだよということを、特に高齢者は１人暮らしが非常に増えて、気分や、先ほどの調理の技術の問題等でやはり多くの高齢者が低栄養になっていく。それに対してしっかりと知識を持ってもらうというの

は、病気名はつかないので行政の仕事としてはふさわしい、こういう食育という枠組みの中では必要なのかなという気がするんですね。

例えばですが、このような、もうちょっと違う視点からの市の事業を展開してもらえないかというようなことを、この委員会から発信できればいいのかなと思います。

○南会長　高齢になって、年金暮らしになると、たんぱく質って値段が高いものですから、どうしてもそれは食べなくて、炭水化物を多く摂取するっていう傾向があるんですね。そういう意味で、低栄養というか、栄養のバランスの悪い食事を取っているという傾向になるので、安くてもたんぱく質がちゃんと取れて、栄養バランスが取れるクッキングとか、そういうのを考えられないかなというふうに思います。

ほかにアイデア、何か。

○鈴木委員　鈴木です。前回の推進会議で和食のパンフレットというか冊子をいただいたんですけれども、私も最近、とても和食がいいなと思うようになってきて、その和食のよさを、江戸・東京野菜を含めて市民にＰＲしていけたらいいなと思います。

○南会長　ありがとうございます。

世界のいろいろな国を見て、その国の料理を家庭で食べていないのは日本だけなんですね。イギリスでは家庭ではイギリス料理、フランスでは家庭ではフランス料理なのに、日本だけは家庭でイタリアやフランスや、韓国とか中国とか、いろいろな国の料理を食べていて、ほんとうに和食を食べるという頻度がすごく減っている。世界遺産にも登録されたっていうこともあって、それが追い風になって和食のイベントをすると人が集まるかなという気がします。

ほかにアイデア、どうでしょうか。

○酒井委員　酒井です。昨日かおととい、ニュースで足立区の事例をやっていたのをごらんになった方いらっしゃったかもしれないのですけれども、飲食店さんで糖尿病を予防しようというメニューを出しているということで、足立区は学校給食に関しても取り組みをすごくやっていて、それと学校給食が一般の人が食べられる場所もあるとかっていうこともあるので、せっかく商工会の方もいらっしゃるので、ライフステージごとのということになると、さっきも言いましたけど、学校とか子供たちのことはすごく目が向くのですけれども、さっき菊谷先生がおっしゃった高齢者とか一般の働いている世代の人に目が向かないので、そういうふうになってくると、例えば飲食さんなんかを巻き込んで、小金井の食育としてそういうことを推進していくような仕組みづくりみたいなことも、ここで審議していくといいのではないかなと。

それで、地産地消とか、そういうことも小金井市はすごく言っているので、そういうことも踏まえて

農家さんとか農協さんとか商工会さんとか、それこそ保健所さんとかもみんな、せっかくここにお集まりの皆さんがいるので、その仕組みづくりみたいなことも少し審議して、将来に向けてやっていけるような形ができるように話が進んだほうがいいのかなと思いますね。

○髙木委員　髙木です。そのニュースは私も拝見させていただきました。足立区以外でも、別のニュースで拝見して兵庫県。

○酒井委員　多分、杉並。

○髙木委員　あ、杉並か。スーパーさんなんかも巻き込んでといいますか、杉並だったか、糖尿病患者が一番多かった市なんですけど、ごめんなさい、ちょっと把握していなくて申しわけないのですが、飲食店と、スーパーでも野菜を食べようということをＰＲということを行政が訴えかけていて、今、実現して実際数値が減っているというデータも出ている。ごめんなさい、ちょっと思い出せなくて申しわけないんですけれども、そうですね、スーパーとか飲食店にも、それこそ先ほど話に出ていたコーディネーターさんの設置で横のつながりをつくるという意味でも、この審議会で発信していけたらなと、私も今、同じ意見を。

○酒井委員　酒井です。皆さんには前回の推進会議の中でもつくられた、「野菜を食べよう」っていう、ちっちゃいパンフレットみたいなのつくりましたよね。あれは皆さんは見ていただいて。

○千葉主任　実物はお配りしていないんですけれども、計画の１０ページに。

○酒井委員　野菜に関してはそういうふうに何か、一生懸命取っていきましょうという話も出ているんですけれども、保健所さんも野菜に関して今後何かあるっていうふうに先ほど伺っているんですが、何かそんな感じで、野菜を食べようっていうのは結構、小金井市、一生懸命やっているように思うんですが。

○齊藤委員　齊藤です。先ほどお話ししましたように、都民の食事の調査をしますと、野菜の摂取量がなかなか目標の１日３５０グラムには達しないという現状がございますので、都の健康づくりのプランの中で野菜の摂取ということを目標にしており、また、保健所のほうの圏域での計画でも目標としています。

○南会長　関係団体から出られている方も、食育に関する取り組みって何かやられていますでしょうか。

○松井委員　逆に言うと、商工業者からすると、そういう行政であるとか、教育関係であるとかというところと取り組みをするというのは難しいというか、まあ、要はコーディネーターという話にもなってくるんですけれども、どなたとコンタクトを取ったらいいのかみたいな部分が意外とわかりにくいので、やってみたいけどできないよという人もいますし、実際に、例えば経済課絡みで今、春のお花見イベントをやってもらっているんですけど、用意するとそんなに出ないんだよねっていうようなこともあった

りして、宣伝にはなるけど商売にはつながらないわねっていうような認識も正直言ってあります。

なので、そこら辺を、ただ、心ある料理人の方もいっぱいいらっしゃいますので、うまくそこら辺の方なんかを使いながらやっていくというのは、予算的な部分でもそんなにかかることではなくてできていくことなので、お話があれば、具体的にこういうことをやりましょうというようなことがあれば、ご協力はできるところがあると思います。

あと、商工会とかっていうものと取り組むと、また大きい話になってきちゃうので、個別の商店街さんとか、飲食店の組合さんとか、そういう、もう少し小さいグループのほうで声をかけたほうが話が早いかもしれないですね。

○嶋崎委員　嶋崎です。ＪＡのほうでは食育というテーマは今、大変重要視されておりますので、ＪＡなりにはやっているんですけれども、それぞれ、今、皆さんここに参加して、それぞれが食育というものに取り組んで、非常に取り組んでいると思うんですよ。食育というのは非常に幅が広いというか、私もここ、ずっと聞いているんですけど、私らはＪＡということで野菜とかそういうところがメーンになってきますし、それで、先ほど言われたコーディネーターの話、それこそＪＡはこういうことを考えている、商工会さんのほうはこういうことを考えている、主婦の方はこういうことを考えている、それを合致させるのが多分コーディネーターさんの役割だと思って、ここに出てきた人から情報を聞いて、どういうふうに有機的に組み合わせたら有効に運動できるかというのが多分、コーディネーターさんのあれだと思うんです。

確かに、うちだけでやっていると非常に弱い部分もありますし、ある部分、商業的なところも出てきちゃいますので、限界みたいなところもありますので、それぞれが食育というテーマで取り組んでいけばすばらしいものがまたできるのかなとも思います。

○松嶋委員　松嶋です。農協の方のお話を聞いていて、友人で野菜を食べたいけれどもどうやって食べたらいいかわからないということなので、それと、あと、忙しいとついつい買ってしまうということも多いと思うので、例えば空揚げを買ったらそのまま食べるんじゃなくて、例えば大根おろしでおろし煮にするだけでもちょっと野菜の量が増えるとか、それを例えばＪＡの野菜売場のところに、もう１品、酢豚を買ってこのピーマンを入れたら何％アップみたいな、ポップじゃないんですけど、あとは野菜のレシピであるとか、江戸東京野菜を売っていても、すごく興味はあるけどどうやって食べたらいいかわからないので買わないということであるので、売っているところで、このようにするとおいしいという提案が、いろんなことができてきて、忙しくていろいろ手をかけられないけど、何かちょっとしたアイデアで野菜を食べることができるっていうような提案をあちこちで見かけるようになると意識も上がって、そんないいことがあったんならやってみようっていうふうにきっと皆さん思うと思うんですけれど

も、やっぱりついつい、今日は子供にいろいろ食べさせたいけど買っちゃうっていうようなことも、結構、皆さん罪悪感を持っていらっしゃる方も多くて、そこを何となく、すっと、こう、野菜をこういうふうにするともう１品プラスでこれだけ栄養がいいんだよというようなことも少しハードルを下げて、全部手づくりじゃなくてもこういうふうにしましょうというような提案もいいのではないかと。それで飲食店の方とか小売りの方とかでもそういうことに協力していただけたらいいかなっていうふうに常々思っておりましたので、そういうことはどうかと思います。

○酒井委員　前は、食育ホームページのレシピを農協さんのウオールポケットに入れさせていただいていたんですけど、今、どうですか。

○嶋崎委員　もっとリニューアルしてきれいになっています。もっと取りやすい位置にして、つってあるっていうんですか。結構、ここでちょっとお店のほうをリニューアルして、今までちょっと高いところで取れなかったんですよ。それをちょっと低いところにして、１枚ずつすぐ取れるようにつってあるっていうんですか。それで、そこそこ何枚かずつ取っていただいています。

○酒井委員　ありがとうございます。

○嶋崎委員　もう１点なんですけど、ＪＡのほうで、お店のほうで野菜のほうなんですけど、それぞれが食育ソムリエという資格がありまして、一応、職員が取っております。知識だけかどうかわからないですけど、資格は持っております。

○南会長　では、聞けば大丈夫っていうことですね。職員の人に。

○土屋委員　大体農協の絡みなので一緒なところがあるのですが、うちが農家っていうのもあるので、食育観点で言えば、各小学校、小金井市の小学校は全校だと思うんですけど、農家の家に行って、ジャガイモのイモ掘り体験というのを必ずやっていると思います。うちのほうにも１年生と２年生が一緒に来て、２年生が１年生を教えながらというような。と言いながら、２年生は勝手に自分で掘っちゃっているみたいですけど。あまり指導というか、お兄さんぶりとかお姉さんぶりを出さないで自分で楽しんでやってるだけらしいですけど、一緒に来てもらって、子供同士で指導してもらいながらやってもらっています。

　ほかにも、第一小学校かな、寺島ナスか何かの栽培の指導とかも一応行ったりはしています。そういう観点では、食育というのも多少やっていますが、それ以上のことは特別はないと言えばないので、何か話があればまたという気はしています。

○南会長　では、今、紹介していただいた関係団体の今までの取り組みをもとに、今後、こういうこともやってほしいなということを市民の方から挙げてもらうといいと思うんですけど、急に言われてもなかなか考える時間がないと思うので、次回までの宿題みたいな形で、小金井市の住民の食の向上という

観点からどんなことがこの審議会でできるかっていうのを、次回までにちょっと宿題という形でお願いできますでしょうか。

事務局のほうから最後に何かありますでしょうか。

○高橋課長　皆さんから今、いろいろな意見をいただいて、いろいろな思いも伺わせていただきました。それで、この審議会の方向性として幾つかの役割があるということですが、一つは先ほどのコーディネーターのこと、もう一つは市が実施している事業の点検、チェックというのがあります。やっぱり回数を増やして年４回やるということなので、そのほかにプラスアルファ何か欲しいねという思いがあって、ただ漫然とやってしまうと、先ほどから申し上げているように、範囲が非常に広いものですから、少しテーマを決めて、そのテーマに沿って突っ込んだ話というのが、限られた回数の中では有効な、有意義な審議会になるのではないかという思いがありますので、皆さんの今の思いとかご意見をそれぞれお聞きさせていただきました。

次回の委員会に向けては、幾つかの決まっている課題についてはそれはそれなんですが、皆さんの意見も踏まえながら、ちょっと議題というか審議内容について整理をさせていただいて、次回の審議会に臨みたいと思いますので、またよろしくお願いします。

○南会長　では、以上で第４回の小金井市食育推進会議を。

○千葉主任　次回の開催予定だけ、すみません。次回の開催予定なんですけれども、先ほど申し上げましたように平成２６年度は４回の開催予定となります。ペースとしては３カ月ごととなるんですが、６月には小金井市議会会開催の関係もありますので、２６年度第１回の会議を５月中旬から下旬に開催させていただければと考えております。詳細な日程につきましては、今回と同じように、幾つかの候補日を委員の皆様にお送りさせていただきまして、参加できる方が多い日程でというふうに考えております。

議題のほうにつきましては、今、いただいたご意見をまとめつつ、また次回までに意見が出るというお話もありましたので、そういったものをまとめて整理をさせていただきたいと思います。以上です。

○南会長　ありがとうございました。

では、第４回の小金井市食育推進会議を終了したいと思います。お疲れさまでした。

―― 了 ――